

Appendix

- Appendix 1. Request letter for facility director
- Appendix 2. Request letter for midwives
- Appendix 3. Consent form for midwives
- Appendix 4. Withdrawal form for midwives
- Appendix 5. Request letter for mothers
- Appendix 6. Questionnaire for midwives (Baseline)
- Appendix 7. Questionnaire for midwives (End-line)
- Appendix 8. Questionnaire for midwives (Follow-up)
- Appendix 9. Questionnaire for mothers
- Appendix 10. Postcard for two months survey
- Appendix 11. Educational program timetable
- Appendix 12. Educational program module
- Appendix 13. Flyer
- Appendix 14. Information resource list
- Appendix 15. Fidelity checklist

研究へのご協力をお願い

「助産師への乳児期予防接種に関する教育介入の効果」

私、遠藤亜貴子は、聖路国際大学博士後期課程に在学している助産師です。このたび、助産師を対象とした乳児期予防接種に関する教育プログラムの効果を検証するために、介入研究を実施したいと考えております。

昨今の風疹の流行を受け、周産期における予防接種支援の必要性が高まっており、特に母子に早くから関わる助産師には、情報提供者としての役割が期待される場所でもあります。しかしながら、ここ数年の相次ぐ制度変更で、現場の助産師からは「情報や知識が不足していると感じる」「最新の知識に基づいて説明できるか自信がない」といった声も聞かれます。

こうした状況を踏まえて、このたび助産師を対象とした教育プログラムを作成いたしました。このプログラムが実際に効果のあるものかどうか、を検証する介入研究にぜひご協力を賜りたくお願い申し上げます。研究の結果は、今後の継続学習プログラムの発展のために活用させていただきたく所存です。

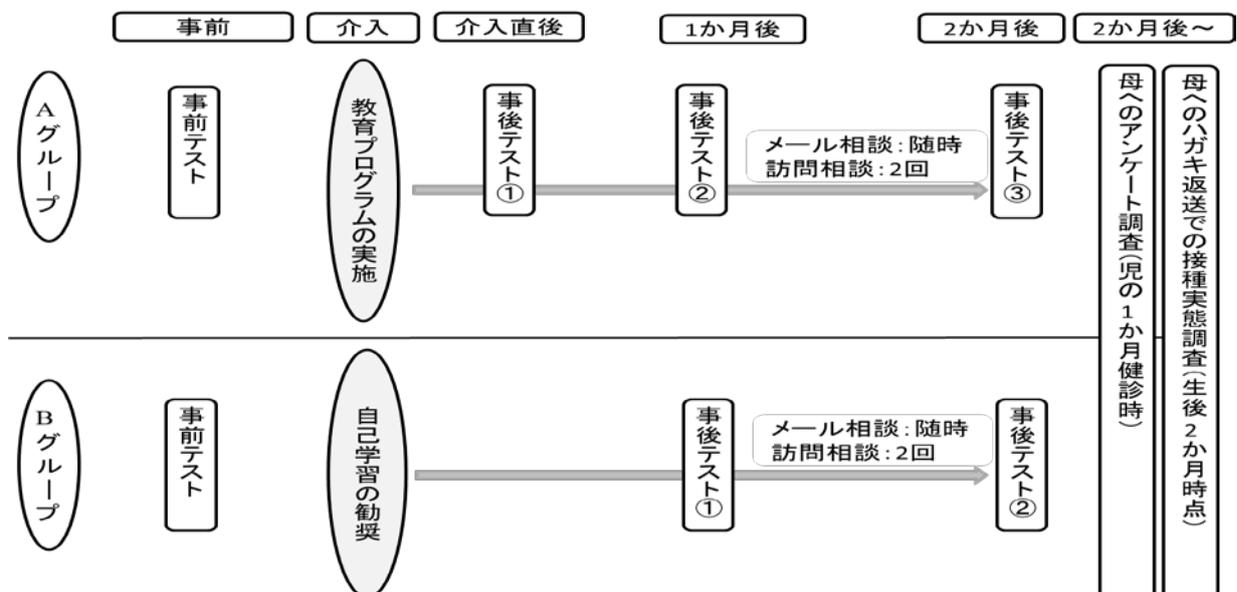
記

1. 研究の方法（下記図参照）

この研究は、A「教育プログラムを受けた助産師」とB「受けていない助産師」の2つのグループを比較するものです。加えて、お母様方へ乳児1か月健診時に質問紙調査ならびに生後2か月時点でハガキ返送による接種実態調査を行い、助産師への研修内容が、どの程度妊婦・褥婦に伝達されたかを確認いたします。

1) 助産師への調査（教育プログラムと質問紙調査）

- (1) AとBは、施設ごとに勤務体系（勤務場所が固定制か変動制か）を考慮して割り付けます。貴院がどちらのグループになるかはわかりません。
- (2) Aに割り付けられた施設には、研究者が出向いて1時間程度の講義を行いますので、会場と机・椅子の提供をお願いいたします。
- (3) Bに割り付けられた施設では講義を行いませんが、ご希望される場合には研究期間終了後に実施いたします。
- (4) 両グループとも、事前・事後テスト計3～4回の質問紙調査（知識テスト含む）にご回答いただきます。事後テストの回数と時期がAとBでは若干異なります（下記図参照）。
- (5) A・Bグループのいずれの質問紙も無記名自記式で、知識テストを含んでいるため、原則その場で記入を依頼し回収いたします。記入後の質問紙は返信用封筒に入れ、研究者が持参する中が見えない回収ボックスに入れていただきます。



2) 母親への調査（質問紙およびハガキによる横断調査）

- (1) 生後1か月児の乳児健診を受けに貴小児科外来を受診したお母様に、研究者が研究協力依頼文書を用いて、対面で協力をお願いいたします。
- (2) 参加意思を示したお母様に対し、自記式質問紙と返信用封筒をお渡しいたします。
- (3) 質問紙へは無記名で記入をお願いし、質問紙の回収をもって研究同意が得られたものといたします。
- (4) 質問紙回答所要時間は5分程度を想定しており、原則として健診中の待ち時間に記入していただきます。
- (5) 記入後、質問紙票を返信用封筒に入れ、貴外来にあらかじめ設置させていただき回収ボックスに入れるよう依頼いたします。
- (6) 返信用封筒は両面テープで封ができるものを使用し、回収ボックスは中が見えないものを準備いたします。質問紙票の回収は研究者が定期的に行います。
- (7) 持ち帰り記入を希望される場合は、返信用封筒を使用して後日郵送するよう依頼いたします。
- (8) 上記調査実施時（乳児1か月健診時）に、同じ対象者に対してハガキを手渡ししておき、生後2か月時点での接種状況を記入し返送してもらうよう依頼します。

2. 倫理的配慮

研究対象者の助産師の皆様とお母様方に対し、調査開始時に以下を研究依頼文書と口頭で説明いたします。

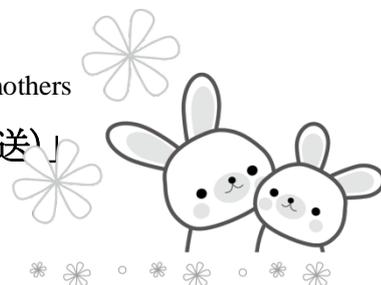
- 1) 研究の目的
- 2) 調査への協力はあくまで対象者の任意であり、調査協力の可否によって、不利益を被ることはないこと。助産師の皆様方には、途中での同意撤回も可能であり、それによって不利益を被ることはないこと。
- 3) 得られたデータは研究目的以外に使用しないこと。また、結果の分析や発表に際しては個人を特定できない形で取り扱い、匿名性は保持されること。
- 4) 全てのデータは、研究者のみが使用できる施錠した場所に保管管理されること。
- 5) 研究終了後は、回答紙を一定期間（5年間）保管した後、シュレッダーで裁断破棄すること。
- 6) 本調査は、大学院博士課程の本研究として実施され、結果は博士論文の一部として取りまとめられた後、学会や専門誌に発表予定であること。
- 7) 本調査は、聖路加国際大学（旧 聖路加看護大学）研究倫理委員会（承認番号：13-081）および貴施設での研究倫理審査委員会の承認も得て実施されること。
- 8) 研究に協力いただいた助産師、お母様それぞれに薄謝を渡すこと。

以上

研究者：遠藤亜貴子
所属機関：聖路加国際大学大学院博士課程後期
住所：〒104-0045 東京都中央区築地 3-8-5
e-mail：12dn002a8e-ts@slcn.ac.jp
電話：03-6226-6361
指導教員：堀内成子
所属機関：聖路加国際大学 母性看護・助産学研究室

「お子様さまの予防接種に関する調査（アンケートとハガキ返送）」

へのご協力をお願い



私は、聖路加国際大学大学院博士後期課程の学生で助産師です。現在、赤ちゃんの予防接種に関する助産師向けの研修を実施し、その効果を調べる研究を行っております。

ここ数年で赤ちゃんを対象とした新しいワクチンが次々に導入され、予防接種の制度が大きく変化しております。お母さま方の多くが、医療者（医師や助産師・看護師など）から赤ちゃんの予防接種に関する情報を得ており、情報提供者としての医療者の役割は大きいものと思われます。特に助産師は、妊娠中からお母さま方に接する機会が多いことから、このたび助産師を対象とした予防接種研修を行い、その研修内容がどのくらいお母さま方に伝わっているか、アンケートとハガキ返送による調査で確認することとなりました。

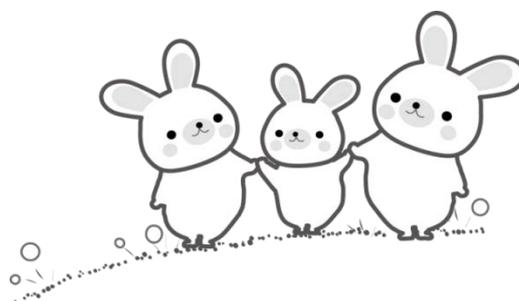
この調査の結果は、論文としてまとめられたのち、医療者向けの予防接種研修を改善していくために活用させていただきます。

つきましては、下記事項をお読みいただいた上、調査にご協力いただきたくお願い申し上げます。ご協力くださった方には、薄謝をお渡しいたします。

この調査へのご協力に際し、以下をお約束いたします。

1. アンケートとハガキ返送へのご協力は、あくまで任意でお願いしておりますので、お断りいただいても結構です。お断りになった場合でも、現在お受けになっている医療や看護で不利益を被るようなことは一切ございません。
2. 回答はすべて無記名でお答えいただきます。
3. 記入済みのアンケートは、返信用封筒に封入の上、外来に備え付けの箱にお入れください。持ち帰ってのご記入を希望される方は、返信用封筒に入れ、後日郵送をお願いいたします。
4. お渡しするハガキは、お子さまが生後 2 か月を過ぎた時点で返送していただくものです。その時点で予防接種を開始していてもいなくても、接種の状況をご記入の上、〇月末までにご投函ください。
5. この調査研究は、大学院博士課程の本研究として実施され、結果は博士論文の一部としてとりまとめ、学会や専門誌に発表される予定です。
6. 但し、結果の分析や発表に際しては個人を特定できない形で取り扱い、集められた情報は研究目的以外に使用されることはありません。
7. お答えいただいたアンケートとハガキは、研究者のみが使用できる施錠した場所に保管され、5年間保存された後、シュレッダーで裁断し破棄いたします。
8. この調査は、聖路加国際大学研究倫理委員会、および本施設の研究倫理審査委員会の承認を得て実施しております。（承認番号：13-081、○○○○○）

研究者名：遠藤 亜貴子
〒104-0045 東京都中央区築地 3-8-5
聖路加国際大学大学院博士課程後期
e-mail：12dn002a8e-ts@slcn.ac.jp



助産師の皆様

研究へのご協力をお願い
「助産師への乳児期予防接種に関する教育介入の効果」

研究者：遠藤 亜貴子

所属：聖路加国際大学博士後期課程

私、遠藤亜貴子は、聖路加国際大学博士後期課程に在学している助産師です。このたび、助産師の皆様を対象とした乳児期予防接種に関する教育プログラムの効果を検証するために、介入研究を実施したいと考えております。

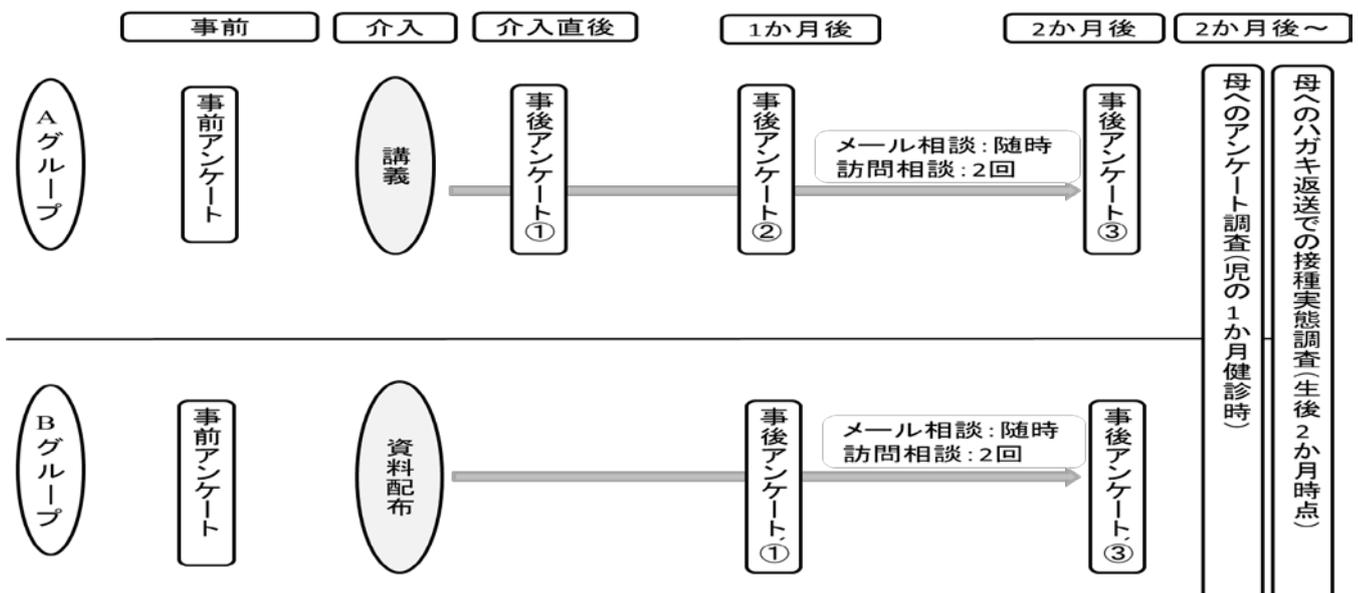
昨今の風疹の流行を受け、周産期における予防接種支援の必要性が高まっており、特に母子に早くから関わる助産師には、情報提供者としての役割が期待される場所でもあります。しかしながら、ここ数年の相次ぐ制度変更で、現場の助産師の方からは「情報や知識が不足していると感じる」「最新の知識に基づいて説明できるか自信がない」といった声も聞かれます。

こうした状況を踏まえて、このたび助産師を対象とした教育プログラムを作成いたしました。このプログラムが実際に効果のあるものかどうか、を検証する介入研究にぜひご協力を賜りたくお願い申し上げる次第です。研究の結果は、今後の継続学習プログラムの発展のために活用させていただく所存です。なお、研究にご協力いただいた方には、薄謝をお渡しいたします。

1. 研究の方法（下記図参照）

この研究は、A「教育プログラムを受けた助産師」とB「受けていない助産師」の2つのグループを比較するものです。加えて、お母様方へ乳児1か月健診時に質問紙調査ならびに生後2か月時点でハガキ返送による接種実態調査を行い、助産師への研修内容が、どの程度妊婦・褥婦に伝達されたかを確認いたします。

- 1) A・Bは、施設ごとに勤務体系（勤務場所が固定制か変動制か）を考慮して割り付けます。貴院がどちらのグループになるかはわかりません。
- 2) Aに割り付けられた施設には、研究者が外向いて1時間程度の講義を行います。
- 3) Bに割り付けられた施設では講義を行いませんが、ご希望される場合には研究期間終了後に実施いたします。
- 4) 両グループとも、事前・事後テスト計3～4回の質問紙調査（知識テスト含む）にご回答いただきます。事後テストの回数と時期がAとBでは若干異なります（下記図参照）。
- 5) A・Bグループのいずれの質問紙も無記名自記式で、知識テストを含んでいるため、原則その場で記入を依頼し回収いたします。記入後の質問紙は返信用封筒に入れ、研究者が持参する中が見えない回収ボックスに入れていただきます。



この調査に際しては、以下をお約束いたします。

1. 本研究へのご協力は、あくまで任意でお願いしているものですので、お断りいただいても結構です。
2. 一旦同意をいただいた後でも、研究への参加を途中で取りやめることができます。
3. 協力をお断りいただく、あるいは途中で取りやめることで、あなたご自身が不利益を被ることはありません。
4. 質問紙への回答は、すべて無記名でお答えいただきます。
5. この調査研究は、大学院博士課程の予備研究として実施され、結果は博士論文の一部としてとりまとめ、学会や専門誌に発表される予定です。
6. 但し、質問紙の結果の分析や発表に際しては、個人を特定できない形で取り扱い、集められた情報は研究目的以外に使用されることはありません。
7. お答えいただいた質問紙は、研究者のみが使用できる施錠した場所に保管され、5年間保存された後、シュレッダーで裁断し破棄いたします。
8. Bグループに割り付けられた病院で、ご希望がある場合には、Aグループが受けた教育プログラムと同じものを研究機関終了後に実施いたします。
9. この調査は、聖路加国際大学（旧 聖路加看護大学）研究倫理委員会、および本施設の研究倫理審査委員会の承認を得て実施しております。（承認番号：13-081、○○○○○）

以上のことをご理解いただいた上で、本研究にご協力をいただければ幸甚です。研究の内容にご賛同いただける方は、別紙の「研究協力への同意書」に署名をお願いいたします。

なお、この研究に関するお問い合わせは、下記の研究者宛にお願いいたします。

研究者：遠藤亜貴子
所属機関：聖路加国際大学大学院博士課程後期
住所：〒104-0045 東京都中央区築地 3-8-5
e-mail：12dn002a8e-ts@slcn.ac.jp

指導教員：堀内成子
所属機関：聖路加国際大学 母性看護・助産学研究室

聖路加国際大学
学長 井部 俊子 殿

研究への参加・協力の同意書

私は、「助産師への乳児期予防接種に関する教育介入の効果」研究に関する下記の説明を理解し、この研究に協力することに同意いたします。

1. この研究は、A「教育プログラムを受けた助産師」とB「受けていない助産師」の2つのグループを比較する介入研究であること。
2. AとBは施設ごとに割り付けられ、自分の病院がどちらのグループになるかはわからないこと。
3. Aのグループになった場合は、1時間程度の講義を受講すること。
4. Bのグループになった場合は、講義の受講はないこと（ただし、希望がある場合には、研究期間終了後に受講できること）。
5. 両グループとも、事前・事後テスト計3～4回の質問紙調査（知識テスト含む）に回答すること。
6. 研究への協力は、自由意志によるものであり、協力を断った場合にも不利益は被らないこと。
7. 一旦協力に同意した後でも、意思を撤回することが可能であり、その場合でも不利益は被らないこと。
8. 研究で得られたデータは、研究目的以外では使用されないこと。
9. データ分析の結果は博士論文の一部としてとりまとめられ、学会や専門誌に発表される予定であること。
10. 研究データは個人を特定できない形で取り扱い、結果の分析や公表に際しては匿名性が保持されること。

日付： 年 月 日

研究協力者氏名（署名） _____

研究者（署名） _____ 遠藤 亜貴子

聖路加国際大学
学長 井部 俊子 殿

研究協力断わり書

私は「助産師への乳児期予防接種に関する教育介入の効果」に関する研究協力に同意しましたが、この度、協力を中止することにしましたので、通知します。

日付： 年 月 日

氏名（署名） _____

予防接種支援に関するアンケート

前

妊娠中～産褥期の、予防接種関連の支援についてお尋ねします。

当てはまる番号に○をつけ、「その他」に該当する場合は、具体的にその内容をご記入ください。

アンケートは裏・表あり、全部で4ページです。



1. 妊婦や褥婦に予防接種について説明すること(質問・相談を含む)は、難しいと感じますか？

左端を「まったく難しくない」とし、右端を「とても難しい」とした場合に、

例にならって今現在あなたが感じている箇所に×印をしてください。

例) |-----×-----|

まったく
難しくない

とても
難しい

2. 以下の項目について妊婦や褥婦に説明すること(質問・相談を含む)は、どの程度難しいと感じますか？

もっとも当てはまる番号1つに○をつけてください。

難易度	まったく 難しくない	あまり 難しくない	どちらとも いえない	やや 難しい	とても 難しい
説明する項目					
1. 生後1歳未満に接種するワクチンの種類	1	2	3	4	5
2. 任意ワクチンの接種の必要性	1	2	3	4	5
3. 接種スケジュールの立て方	1	2	3	4	5
4. 集団免疫効果	1	2	3	4	5
5. ワクチンの副反応	1	2	3	4	5



3. 以下の項目について、あなたご自身はどの程度当てはまると思われますか？もっとも当てはまる番号 に○をつけてください。

	まったく そう思わない	あまりそう 思わない	どちらとも いえない	やや そう思う	とても そう思う
1. 予防接種に関する知識が不足している	1	2	3	4	5
2. 予防接種に関する最新の情報を知らない	1	2	3	4	5
3. 時間がないので、予防接種のことまで説明できない	1	2	3	4	5
4. 自然に疾患に罹患する方が、ワクチンより高い免疫効果が得られるので望ましい	1	2	3	4	5
5. 受けられる予防接種はすべて受けた方がいい	1	2	3	4	5
6. 自分の患者には、積極的に予防接種を勧めたい	1	2	3	4	5

4. に、以下の機会に予防接種の話題に何回触れましたか？

“話題に触れた”とは、妊婦や褥婦に「接種を勧めた」、「冊子やチラシ、日程表を渡した」、「質問・相談を受けた」、「詳しく説明した」などを指します。予防接種に関する話題であれば内容や形式は問いません。

 で当てはまる番号 に○を入れてください。

機会 \ 頻度	0回/週	1~3回/週	4回以上/週
1. 母親学級(両親学級)で	1	2	3
2. 妊婦健診(外来)で	1	2	3
3. 入院中の妊婦へ	1	2	3
4. 入院中の褥婦へ(退院指導含む)	1	2	3
5. 退院後のフォローアップ外来で(母乳相談等)	1	2	3
6. 母の1か月健診で	1	2	3
7. 児の1か月健診で	1	2	3
8. 乳児期の集団指導(子育てサロン等)で	1	2	3



5. 予防接種とその対象疾患についての質問です。

当てはまる番号 1つ に○をつけて下さい。

	そうである	そうでない	わからない
1. 集団内で疾患の流行を抑えるには、7割程度のワクチン接種率が必要である	1	2	3
2. 集団免疫力を高めることを、ワクチンのコクーン(繭玉)・ストラテジーという	1	2	3
3. 5月1日生まれの子の場合、生後2か月の7月1日～予防接種を開始するようすすめる	1	2	3
4. 生ワクチン接種後は4週間後の同じ曜日から、不活化ワクチン接種後は1週間後の同じ曜日 から次回接種ができる	1	2	3
5. 生ワクチン同士の同時接種は避けるべきである	1	2	3
6. 風疹ワクチンは生ワクチンなので、授乳中は接種を避けるべきである	1	2	3
7. 風疹抗体価が低い母親は、MR(麻疹・風疹混合)ワクチンを接種した方がよい	1	2	3
8. Hibと肺炎球菌のワクチンは、呼吸器感染症を予防するワクチンである	1	2	3
9. ロタは夏に流行る病気である	1	2	3
10. ロタワクチンは重症化を防ぐワクチンであって、ウィルス自体の感染は防げない	1	2	3
11. ロタワクチンには2種類あり、接種回数と接種完了時期が異なるが接種開始時期は同じで ある	1	2	3
12. B型肝炎は1歳未満で感染すると、約9割がキャリア化する	1	2	3
13. B型肝炎ワクチンを3回接種すれば、終生免疫が獲得できる	1	2	3
14. B型肝炎ワクチンは生後1か月でも接種できる	1	2	3
15. 小児期にその疾患に罹患している、またはワクチンの接種を完了している場合は、抗体価を 測ってから追加接種を検討する	1	2	3
16. ワクチンの有害事象と副反応は同じ意味である	1	2	3
17. 早産や低出生体重児の場合、接種開始時期を遅らせるようすすめられることが多い	1	2	3
18. 血液疾患などで免疫力が低下している子どもの場合、生ワクチンは接種できないことが多い	1	2	3
19. 生ワクチンは、規定回数の接種を完了していればその後の自然感作によって抗体価は高い まま保たれる	1	2	3
20. 生後半年までに接種を開始する予防接種の中で、任意接種ワクチンはB型肝炎とロタだけ である	1	2	3



6. あなたご自身のことについて伺います。

1. **助産師**としての経験年数は何年ですか？

()に数字を入れてください。

助産師経験 ()年

2. あなたの現在の主な勤務場所は以下のどれですか？

当てはまる番号 **1つ**に○をつけてください

1. 外来 2. 病棟 3. 両方(日によってどちらかに配置される)
4. その他()

3. これまでに、**予防接種に関する研修会や勉強会**に参加した経験がありますか？当てはまる番号 **1つ**に○をつけてください

1. 3年以内に参加したことがある 2. 4年以上前に参加したことがある 3. 参加したことがない

4. あなたの年齢についてお尋ねします。

当てはまる番号 **1つ**に○をつけてください。

1. 20歳代 2. 30歳代 3. 40歳代 4. 50歳以上

5. あなたの最終学歴(看護職としての)についてお尋ねします。

当てはまる番号 **1つ**に○をつけてください。

1. 専門学校・短大卒業 2. 大学卒業 3. 大学院修了

ご意見、コメントがあればご自由にご記載ください

ご協力ありがとうございました



予防接種支援に関するアンケート

後

妊娠中～産褥期の、予防接種関連の支援についてお尋ねします。

当てはまる番号に○をつけてください。

アンケートは裏・表あり、全部で4ページです。



1. 妊婦や褥婦に予防接種について説明すること(質問・相談を含む)は、**難しい**と感じますか？

左端を「全く難しくない」とし、右端を「とても難しい」とした場合に、
例にならって今現在あなたが感じている箇所に×印をしてください。

例) |-----×-----|

まったく
難しくない

とても
難しい

2. 以下の項目について妊婦や褥婦に説明すること(質問・相談を含む)は、どの程度 **難しい**と感じますか？

もっとも当てはまる番号 **1つ** に○をつけてください。

説明する項目	難易度				
	まったく 難しくない	あまり 難しくない	どちらとも いえない	やや 難しい	とても 難しい
1. 生後 1 歳未満に接種するワクチンの種類	1	2	3	4	5
2. 任意ワクチンの接種の必要性	1	2	3	4	5
3. 接種スケジュールの立て方	1	2	3	4	5
4. 集団免疫効果	1	2	3	4	5
5. ワクチンの副反応	○ 1	○ 2	○ 3	○ 4	○ 5



3. 以下の項目について、あなたご自身はどの程度 **当てはまる** と思われますか？もっとも当てはまる番号 1 に○をつけてください。

	まったく そう思わない	あまりそう 思わない	どちらとも いえない	やや そう思う	とても そう思う
1. 予防接種に関する知識が不足している	1	2	3	4	5
2. 予防接種に関する情報を更新できていない	1	2	3	4	5
3. 時間がないので、予防接種のことまで説明できない	1	2	3	4	5
4. 自然に疾患に罹患する方が、ワクチンより高い免疫効果が得られるので望ましい	1	2	3	4	5
5. 受けられる予防接種はすべて受けた方がいい	1	2	3	4	5
6. 自分の患者には、積極的に予防接種を勧めたい	1	2	3	4	5

4. 予防接種の研修について、どんな感じになりましたか？

もっとも当てはまる番号 1 に○をつけてください。

	まったく そう思わない	あまりそう 思わない	どちらとも いえない	やや そう思う	とても そう思う
1. 講義内容はわかりやすかった	1	2	3	4	5
2. 時間が短すぎた	1	2	3	4	5
3. 内容は期待したものと合っていた	1	2	3	4	5
4. 講師の説明はわかりやすかった	1	2	3	4	5
5. 実際に臨床で使える内容だった	1	2	3	4	5
6. この研修を他の人にも勧めたい	1	2	3	4	5



5. 予防接種とその対象疾患についての質問です。

当てはまる番号 に○をつけて下さい。

	そうである	そうでない	わからない
1. 集団内で疾患の流行を抑えるには、7割程度のワクチン接種率が必要である	1	2	3
2. 集団免疫力を高めることを、ワクチンのコクーン(繭玉)・ストラテジーという	1	2	3
3. 5月1日生まれの子の場合、生後2か月の7月1日～予防接種を開始するようすすめる	1	2	3
4. 生ワクチン接種後は4週間後の同じ曜日、不活化ワクチン接種後は1週間後の同じ曜日から次回接種ができる	1	2	3
5. 生ワクチン同士の同時接種は避けるべきである	1	2	3
6. 風疹ワクチンは生ワクチンなので、授乳中は接種を避けるべきである	1	2	3
7. 風疹抗体価が低い母親は、MR(麻疹・風疹混合)ワクチンを接種した方がよい	1	2	3
8. Hibと肺炎球菌のワクチンは、呼吸器感染症を予防するワクチンである	1	2	3
9. ロタは夏に流行る病気である	1	2	3
10. ロタワクチンは重症化を防ぐワクチンであって、ウィルス自体の感染は防げない	1	2	3
11. ロタワクチンには2種類あり、接種回数と接種完了時期が異なるが接種開始時期は同じである	1	2	3
12. B型肝炎は1歳未満で感染すると、約9割がキャリア化する	1	2	3
13. B型肝炎ワクチンを3回接種すれば、終生免疫が獲得できる	1	2	3
14. B型肝炎ワクチンは生後1か月でも接種できる	1	2	3
15. 小児期にその疾患に罹患している、またはワクチンの接種を完了している場合は、抗体価を測ってから追加接種を検討する	1	2	3
16. ワクチンの有害事象と副反応は同じ意味である	1	2	3
17. 早産や低出生体重児の場合、接種開始時期を遅らせるようすすめられることが多い	1	2	3
18. 血液疾患などで免疫力が低下している子どもの場合、生ワクチンは接種できないことが多い	1	2	3
19. 生ワクチンは、規定回数の接種を完了していればその後の自然感作によって抗体価は高いまま保たれる	1	2	3
20. 生後半年までに接種を開始する予防接種の中で、任意接種ワクチンはB型肝炎とロタだけである	1	2	3



ご意見、コメントがあればご自由にご記載ください



ご協力ありがとうございました



予防接種支援に関するアンケート

2か月後

妊娠中～産褥期の、予防接種関連の支援についてお尋ねします。

当てはまる番号に○をつけてください。

アンケートは裏・表あり、全部で4ページです。



1. 妊婦や褥婦に予防接種について説明すること(質問・相談を含む)は、**難しい**と感じますか？

左端を「全く難しい」とし、右端を「とても難しい」とした場合に、

例にならって今現在あなたが感じている箇所に×印をしてください。

例) |-----×-----|

まったく
難しい

とても
難しい

|-----|

2. 以下の項目について妊婦や褥婦に説明すること(質問・相談を含む)は、どの程度 **難しい**と感じますか？

もっとも当てはまる番号 **1つ** に○をつけてください。

説明する項目	難易度				
	まったく 難しい	あまり 難しい	どちらとも いえない	やや 難しい	とても 難しい
1. 生後1歳未満に接種するワクチンの種類	1	2	3	4	5
2. 任意ワクチンの接種の必要性	1	2	3	4	5
3. 接種スケジュールの立て方	1	2	3	4	5
4. 集団免疫効果	1	2	3	4	5
5. ワクチンの副反応	1	2	3	4	5



3. 以下の項目について、あなたご自身はどの程度 **当てはまる** と思われますか？もっとも当てはまる番号 **1つ** に○をつけてください。

	まったく そう思わない	あまりそう 思わない	どちらとも いえない	やや そう思う	とても そう思う
1. 予防接種に関する知識が不足している	1	2	3	4	5
2. 予防接種に関する情報を更新できていない	1	2	3	4	5
3. 時間がないので、予防接種のことまで説明できない	1	2	3	4	5
4. 自然に疾患に罹患する方が、ワクチンより高い免疫効果が得られるので望ましい	1	2	3	4	5
5. 受けられる予防接種はすべて受けた方がいい	1	2	3	4	5
6. 自分の患者には、積極的に予防接種を勧めたい	1	2	3	4	5

4. **最近1週間以内**に、以下の機会に**予防接種の話題**に何回触れましたか？

“話題に触れた”とは、妊婦や褥婦に「接種を勧めた」、「冊子やチラシ、日程表を渡した」、「質問・相談を受けた」、「詳しく説明した」などを指します。予防接種に関する話題であれば内容や形式は問いません。

それぞれの**機会**で当てはまる番号**1つ**に○を入れてください。

機会 \ 頻度	0回/週	1~3回/週	4回以上/週
1. 母親学級(両親学級)で	1	2	3
2. 妊婦健診(外来)で	1	2	3
3. 入院中の 妊婦 へ	1	2	3
4. 入院中の 褥婦 へ(退院指導含む)	1	2	3
5. 退院後のフォローアップ外来で(母乳相談等)	1	2	3
6. 母の1か月健診で	1	2	3
7. 児の1か月健診で	1	2	3
8. 乳児期の集団指導(子育てサロン等)で	1	2	3



5. 予防接種とその対象疾患についての質問です。

当てはまる番号 に○をつけて下さい。

	そうである	そうでない	わからない
1. 集団内で疾患の流行を抑えるには、7割程度のワクチン接種率が必要である	1	2	3
2. 集団免疫力を高めることを、ワクチンのコクーン(繭玉)・ストラテジーという	1	2	3
3. 5月1日生まれの子の場合、生後2か月の7月1日～予防接種を開始するようすすめる	1	2	3
4. 生ワクチン接種後は4週間後の同じ曜日、不活化ワクチン接種後は1週間後の同じ曜日から次回接種ができる	1	2	3
5. 生ワクチン同士の同時接種は避けるべきである	1	2	3
6. 風疹ワクチンは生ワクチンなので、授乳中は接種を避けるべきである	1	2	3
7. 風疹抗体価が低い母親は、MR(麻疹・風疹混合)ワクチンを接種した方がよい	1	2	3
8. Hibと肺炎球菌のワクチンは、呼吸器感染症を予防するワクチンである	1	2	3
9. ロタは夏に流行る病気である	1	2	3
10. ロタワクチンは重症化を防ぐワクチンであって、ウィルス自体の感染は防げない	1	2	3
11. ロタワクチンには2種類あり、接種回数と接種完了時期が異なるが接種開始時期は同じである	1	2	3
12. B型肝炎は1歳未満で感染すると、約9割がキャリア化する	1	2	3
13. B型肝炎ワクチンを3回接種すれば、終生免疫が獲得できる	1	2	3
14. B型肝炎ワクチンは生後1か月でも接種できる	1	2	3
15. 小児期にその疾患に罹患している、またはワクチンの接種を完了している場合は、抗体価を測ってから追加接種を検討する	1	2	3
16. ワクチンの有害事象と副反応は同じ意味である	1	2	3
17. 早産や低出生体重児の場合、接種開始時期を遅らせるようすすめられることが多い	1	2	3
18. 血液疾患などで免疫力が低下している子どもの場合、生ワクチンは接種できないことが多い	1	2	3
19. 生ワクチンは、規定回数の接種を完了していればその後の自然感作によって抗体価は高いまま保たれる	1	2	3
20. 生後半年までに接種を開始する予防接種の中で、任意接種ワクチンはB型肝炎とロタだけである	1	2	3



6. 以下について、当てはまる番号 **どちらかに** をつけてください。

	はい	いいえ
1. 配布された看護師・助産師向けの冊子を読んだ	1	2
2. 予防接種情報の web サイトのどれかにアクセスしてみた	1	2
3. 予防接種への関心が前より高くなった	1	2

ご意見、コメントがあればご自由にご記載ください



ご協力ありがとうございました



予防接種に関するアンケート

生後1か月になるお子さまとお母さまの予防接種についてお尋ねします。

当てはまる番号に○をつけてください。

アンケートは裏・表あり、全部で4ページです。



1. これからお子さまに受けさせようとお考えの予防接種は、以下のうちどれですか？

接種予定の番号すべてに○をつけてください。

- | | | |
|------------------|---------|----------------------|
| 1. ヒブ | 2. 肺炎球菌 | 3. 四種混合(三種混合+ポリオも含む) |
| 4. BCG | 5. ロタ | 6. B型肝炎 |
| 7. 予防接種は受けさせない予定 | | |

2. 妊娠中に風疹の抗体価を検査されているかと思えます。

その検査結果を受けて、お母様ご自身の風疹の予防接種について、

当てはまるのは以下のうちどれですか？

当てはまる番号 1つだけに○をつけてください。

1. 予防接種の必要はない
2. 予防接種を産後にすでに受けた
3. これから予防接種を受けるつもり
4. 予防接種を受けるかどうか決めていない
5. 予防接種が必要かどうかわからない

3. 妊娠中～出産後に、予防接種について助産師から話を聞く機会がありましたか？

*医師ではなく助産師から話を聞いたかどうかについてお答えください。

“話を聞いた”とは、「接種を勧められた」、「冊子やチラシ、日程表を渡された」、「接種時期や受け方を説明された」などを指します。予防接種についての話であれば内容や形式は問いません。

当てはまる番号 1つ に○をつけてください

	聞いた	聞かなかった	覚えていない	受けていない (該当しない)
母親学級(両親学級)	1	2	3	4
妊婦健診外来	1	2	3	
産前の入院中	1	2	3	4
産後の入院中	1	2	3	
母乳相談(退院後)	1	2	3	4
お母さんの1か月健診	1	2	3	
赤ちゃんの1か月健診	1	2	3	

4. どの医療機関で、お子さまの予防接種を受けるか決めていますか？

当てはまる番号 1つ に○をつけてください。

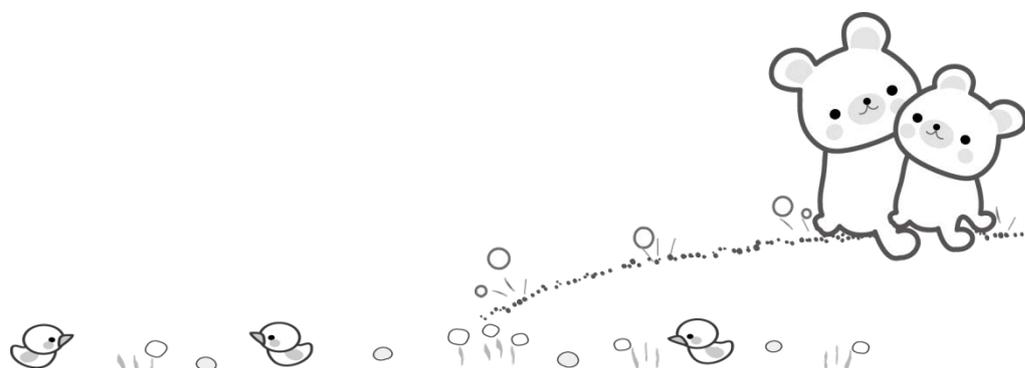
1. すでに予約を取った
2. 決めている(まだ予約はしていない)
3. 探し始めている(まだ決めてはいない)
4. まだ探し始めている
5. 予防接種は受けさせない予定

5. 予防接種で防げる病気についてお尋ねします。

以下の質問について、当てはまる番号 に○をつけて下さい。

なお、これらの情報は必ず知っていなければならないものではありません。予防接種に関するよりよい支援を検討していくために、ご協力をいただければ幸いです。

選択肢には正誤が混じっています。正解をお知りになりたい場合は、研究者にお声掛けいただくか、メールでお問い合わせください(12dn002a8e-ts@slcn.ac.jp)。	そうである	そうでない	わからない
1. BCG は結核の予防接種である	1	2	3
2. ポリオにかかると手足のまひが残ることがある	1	2	3
3. ロタは夏によく流行る病気である	1	2	3
4. ロタの主な症状は、おう吐と下痢である	1	2	3
5. 結核は血液や体液にさわることによって感染する	1	2	3
6. 破傷風(はしょうふう)はケガをした際に、傷口から感染する病気である	1	2	3
7. B 型肝炎は汚れた水や食べ物を介して感染する	1	2	3
8. 1 歳未満で B 型肝炎ウイルスに感染すると、経過がよくない(キャリア<持続感染者>になりやすい)	1	2	3
9. ヒブと肺炎球菌の予防接種は、細菌性の髄膜炎(ずいまくえん)を予防するためのワクチンである	1	2	3
10. 四種混合ワクチンは、ジフテリア、百日咳、ウイルス性髄膜炎、ポリオを合わせたワクチンである	1	2	3



6. お子さま(このアンケートでお答えいただいたお子さま)は、
あなたにとって何人目のお子さまですか？

当てはまる番号 に○をつけてください。

1. 第1子 2. 第2子 3. 第3子以上

7. あなたの年齢についてお尋ねします。

当てはまる番号 に○をつけてください。

1. 10代(20歳未満) 2. 20歳代 3. 30歳代 4. 40歳以上

8. あなたの出産前のお仕事についてお尋ねします。

当てはまる番号 に○をつけてください。

1. (出産前は)専業主婦だった
2. (出産前は)フルタイムで働いていた
3. (出産前は)パートタイムで働いていた

9. あなたの最終学歴についてお尋ねします。

当てはまる番号 に○をつけてください。

1. 中学～高校卒業 2. 専門学校・短大卒業 3. 大学卒業 4. 大学院修了

ご意見、コメントがあればご自由にご記載ください



ご協力ありがとうございました

東京都中央区築地三―八―五

聖路加国際大学 看護開発実践研究センター内

遠藤亜貴子 行

このハガキは、〇月末までにご投函ください。

生後2か月になるお子さんについて伺います。

◆お子さんの生年月日はいつですか？

(2014年 月 日)

◆下記の4つのワクチンのうち、これまでにお子さんが
接種した(あるいは予約した)ワクチンに〇をつけてく
ださい。

また、接種した日付(予約の場合は接種予定日)も
ご記入ください。

1. ヒブ (月 日)
2. 肺炎球菌 (月 日)
3. B型肝炎 (月 日)
4. ロタ (月 日)
5. まだ予約を取っていない

ご意見・コメントがあればご自由にご記載ください。

ご協力ありがとうございました。



助産師のための予防接種支援教育プログラム

目的:

1. 妊婦および褥婦に予防接種支援を提供するための基礎知識と最新情報を習得する。
2. 予防接種支援に対する困難感が軽減し、周産期および産褥期における予防接種支援の機会が増加する。

目標:

1. 予防接種の必要性について説明できる。
2. 母子とその家族に接種が必要なワクチンの種類が説明できる。
3. 母子が接種するワクチンの接種時期が説明できる。
4. 任意ワクチンについて、接種の必要性が説明できる。
5. ワクチンの効果と副反応のリスクについて説明できる。

※ここでいう「母子」とは、妊娠・産褥期および乳児期早期の母子をいう。

項目	細目	時間
導入	講師自己紹介・プログラムの説明	5分
アンケート記入 (プレテスト)		10分
予防接種の必要性	集団免疫効果	5分
風疹	風疹抗体価の確認とワクチンの接種勧奨	5分
接種の実際	ワクチンの接種開始時期 接種準備 (医療機関探し) 接種スケジュールの立て方 任意ワクチンの接種勧奨	10分
接種完了の必要性	ブースター効果	3分
ワクチンの副反応	有害事象と副反応	5分
接種記録と健康管理	母子手帳の活用	2分
まとめ	妊娠中・産褥入院中に指導が必要な項目の整理	5分
質疑応答		5分
話し合い	職場としてどのように予防接種支援に取り組んでいくか	15分

項目	細目	時間
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常業務の中で、どの場面でどの程度の時間なら予防接種に関して触れることが可能か ・ 最低限説明すべき項目は何か ・ 配布資料をどの場面でどのように活用していくか 	
アンケート記入 (ポストテスト)		5分

必要物品 (研究者側で準備するもの) :

- ・ 助産師が支援時に使用する資料 (研究者作成 A4 裏表一枚)
- ・ 情報サイト一覧表 (研究者作成 A4 裏表一枚)
- ・ 冊子 (VPD を知って、子供を守ろうの会発行)
- ・ ボールペン
- ・ ペットボトル飲料

会場設営 :

- ・ 机と椅子は施設側が提供するものを使用
- ・ 受講者は机を囲む形で着席 (下記のイラスト参照)



助産師を対象とした乳児期早期の予防接種に関する教育プログラムモジュール

時期	項目	内容
妊娠中 ・両親学級 ・妊婦健診 ・NST 装着時	1. 集団免疫効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ワクチンの繭で赤ちゃんを守ってもらおう！→本人（妊婦や乳児）が接種できないワクチンがある（例えば風疹）。その場合は周囲の人間が接種して、地域で疾患に罹患する人を減らすことで間接的に赤ちゃんを守る ・産まれたら、今度は繭になろう！→接種できるワクチンを早めに済ませることで、周りの妊婦さんや赤ちゃんに疾患を移さないですむ。集団の約9割が接種を完了していれば、集団内でその疾患の流行は抑えられるといわれている
	2. 風疹抗体価（妊婦、夫、上の子）とワクチン接種の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・妊婦の HI 抗体価が 16 倍以下（32 倍でも時間経過とともに下がっていくので接種勧めてよい）であれば、産後できるだけ早くワクチン接種（授乳中の接種可）を勧める ・風疹抗体低い場合は麻疹抗体も低いことが予想されるため MR ワクチンの接種が望ましい ・MR ワクチン（風疹単独ワクチンも）接種後 2 か月間は妊娠を避ける必要があるため、次の挙児希望があればできるだけ早めに接種を済ませること ・夫は直ちにワクチン接種を：内科小児科もしくはトラベルクリニックで要予約、自治体の費用助成の確認を ・罹患歴や接種歴があっても追加接種は問題なし（抗体価測定費用と時間がかかるので直接接種して可）：近年自然感作の機会が減り、接種歴あっても抗体価下がっていることあり。また、罹患歴があっても診断が正確でないケースもありうる ・上の子がいる場合は 1 歳時、5 歳時に MR ワクチン（定期）を接種済か確認 ・麻疹（初期の感染では 30% の確率で流・早産）、水痘（20 週未満の感染で 2% に先天性水痘：四肢低形成、眼球異常、皮膚瘢痕）も挙児希望褥婦やその家族が受けておきたいワクチン
	3. 接種の開始時期とスケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ・生後 2 か月に赤ちゃんのワクチンデビューを（行政上の月年齢の数え方：お誕生日の前日に年を取るすなわち 4 月 2 日生まれなら 6 月 1 日から生後 2 か月とみなす） ・乳児期早期に開始するワクチンは 6 種類（Hib、肺炎球菌、四種混合、BCG、B 型肝炎、ロタ） ・任意ワクチンは打っても打たなくてもいいワクチンではない。任意ワクチン費用約 4 万 5 千円（ロタ 3 万円+B 型肝炎 1 万 5 千円）はパパとママから赤ちゃんへのギフトと考え準備を ・同時接種を前提としてスケジュールを立てることが、確実に赤ちゃんを疾患から守るために必要 *理由は入院中の“2.同時接種のすすめ”の項参照 ・生後 2 か月から接種開始して、半年間は少なくとも毎月 1 回は接種に通うことになる（同時接種の場合）

時期	項目	内容
妊娠中 ・両親学級 ・妊婦健診 ・NST 装着時	4. 接種医療機関やかかりつけ医の情報収集	<ul style="list-style-type: none"> ・ワクチンで予防できる疾患はほんの一部。乳幼児期は疾病に罹患しやすい時期なので医療機関受診の機会も多い。妊娠中から情報収集を開始し、早めにかかりつけ医の目星をつけておくと安心 ・たとえ予防接種する医療機関とかかりつけ医が違ったとしても、母子手帳に接種の記録は残るので大丈夫
妊娠中に伝えておくこと <ul style="list-style-type: none"> ・ 予防接種の必要性 ・ 妊娠初期の風疹抗体価、夫や上の子の接種歴／罹患歴の確認→必要なら接種勧奨 ・ 生後 2 か月から接種を開始 ・ 対象 6 種類のワクチンすべて接種 ・ 接種医療機関を早めに選定 		
産褥期 ・入院中 ・1 か月健診 ・母乳相談 ・育児サロン	1. 接種の開始時期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生後 2 か月にワクチンデビューを（4月2日生まれなら6月1日～） ・ 母の風疹 HI 抗体価 16 倍以下ならば遅くともこの時一緒に MR 接種を（分娩後いつからでもよい）、小児科で成人にワクチン接種していないところもあるので事前に確認必要 ・ 早産や低出生体重児の場合、感染リスクが高いので修正月齢でなく実月齢での接種を勧められることが多い（RS 感染症を防ぐシナジスは、ワクチンではなくモノクロナール抗体なので接種スケジュールには影響しない）
	2. 同時接種のすすめ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 月齢の早い乳児ほど罹患した場合に重症化しやすいため、接種開始月齢になったらできるだけ早く接種することが大事 ・ 定頭後（3～4 か月）は外出（暴露）の機会が増え、胎盤移行免疫は低下してくるので、その前に接種可能なワクチンは済ませておく方がよい⇒そのためにも生後 2 か月には接種を開始することが重要 ・ 同時接種でないとしても接種開始時期が遅くなっていく（接種間隔を空ける必要があるため）、小児科に連れて行く（暴露の）機会が増えてしまう（1本ずつだと1歳までに16回、同時接種だと5回） ・ 世界標準は同時接種（日本以外の諸外国では同時接種が原則）で、1回の接種本数に制限はない ・ 同時接種により副反応リスクが高まるというデータはない、逆に同時接種だと個々のワクチン効果が弱まるというエビデンスもない ・ 生ワクチンと不活化ワクチンの同時接種は可（生ワクチン同士の同時接種も可） ・ 接種部位は、2.5cm 空ければ同肢でも接種可能

時期	項目	内容
	3. 接種スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ・初回接種ワクチンの種類：Hib、肺炎球菌、B型肝炎、ロタ（+母のMR） ・Hib と肺炎球菌ワクチンは髄膜炎を予防するワクチンで、子どもの細菌性髄膜炎のうち7～8割がこの2つが起炎菌 ・ロタとB型肝炎以外は定期接種なので、自治体から費用が助成される。2か月になる前に助成券が郵送されるので接種時に持参すること。医療機関リストも同封されて送られてくるはず。届かなければ役所に電話で問い合わせること ・かかりつけ医を決めたら、接種予約は早めに済ませておく（出産した病院で受ける場合は、1か月健診時に予約を） ・日本小児科学会推奨のスケジュールに沿って説明：個別スケジュールは接種医療機関で立ててもらおう（初回接種さえもれなく済めば、通常は次回接種時期を指示されるはず）
産褥期 ・入院中 ・1か月健診 ・母乳相談 ・育児サロン	4. 生ワクチンと不活化ワクチン（トキソイド含む）の接種間隔	<ul style="list-style-type: none"> ・生ワクチンを接種したら27日間（4週間後の同じ曜日から接種再開可）、不活化ワクチンを接種したら6日間（1週間後の同じ曜日から接種再開可）の間隔を開ける ・接種間隔を空ける理由は、副反応の発症しやすい期間を避けて追加接種をするため、またワクチン同士の干渉作用を避けるため、とされているが医学的な根拠は乏しい
	5. 任意ワクチン接種の勧奨（ロタウイルスとB型肝炎）	<p>ロタウイルス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経口感染する嘔吐下痢症で、毎年冬から春先にかけて流行 ・5歳までにはほぼ100%ロタウイルスに感染はするが、ロタワクチンは発症および重症化を抑える効果がある ・月齢の低い乳幼児ほど重症化（脱水による入院ケースは多い、まれに脳症）しやすく、5歳未満の下痢症入院の50%以上はロタウイルスが原因 ・ワクチンはロタウイルスによる重症嘔吐下痢症の9割を予防できるといわれている ・保育園入園の予定（その他集団保育の機会）がある場合は特に接種はお勧め：暴露機会が多いこと、発症した場合に登園を控えるように言われるので親が仕事を休んで看病しなければならない ・ロタリックス（2回経口投与）とロタテック（3回経口投与）があるが、初回接種期限が生後15週未満（14週6日）までなので受け損ねないように注意（ワクチン副反応である腸重積の好発年齢が生後15週～2歳なので、初回投与が15週を過ぎると受けられない） ・日本以外の先進国では定期接種ワクチンとして無料で実施されている ・費用は計3万円程度かかる（ロタリックス約1万5千円×2、ロタテック約1万円×3）

時期	項目	内容
産褥期 ・入院中 ・1か月健診 ・母乳相談 ・育児サロン		B型肝炎 <ul style="list-style-type: none"> ・これまでは垂直感染（母子感染）予防に重点がおかれていたが、最近では水平感染（母親以外からの感染）が問題になってきている（保育園での25名への集団感染も2002年に発生している） ・血液や体液（唾液、精液など）を介して移る疾患で、これまでにカミソリの共有や嘔みつかれての感染が報告されているが、感染経路を特定できないケースがほとんど ・1歳未満で感染すると、キャリア化（持続感染者）するリスクが高い（9割）ことがわかっている、1歳を過ぎると感染してもキャリア化するリスクはぐっと低くなる（3～5割程度）、大人は感染者の5%未満しかキャリア化しない ・キャリア化した人のうち、15～25%が将来肝硬変や肝がんに移行する ・一旦キャリアになると、定期検査での経過確認の必要性が生じ、かつ、進学・就職・結婚などの人生の節目で悩む場面も出てくる。そうしたコストも含めて接種を考慮する必要がある ・ワクチンによる抗体有効期間は22年程度といわれている ・日本以外の国（途上国含む）では出生直後（24時間以内）に接種を開始するワクチン ・合計3回の接種が必要で、費用は3回で1万5千円程度かかる
	6. 集団免疫効果	<ul style="list-style-type: none"> ・集団内でその疾患の流行を抑えるのに必要な接種率は大体9割といわれている。予防接種は、自分の子どもを疾患から守るだけでなく周りの赤ちゃんや妊婦さんを守ることになる ・例えば、白血病などで免疫力が落ちていて生ワクチンを接種できない子どもがいる。そうした子どもにとっては、周りの人がワクチンを接種して集団内で疾患が流行しない（ワクチンの蔭で守ってもらう）ことがどうしても必要 ・接種できるワクチンを早めに済ませ、日々を健康に過ごすことが、知らない誰かの健康につながっていくという社会的な意義がある
	7. ブースター効果	<ul style="list-style-type: none"> ・決められた回数の接種を完了して初めて免疫効果が期待できる ・特に、不活化ワクチンは生ワクチンに比べて反応性が弱いため、免疫を獲得するにはどうしても複数回（3～4回以上）の接種が必要になる ・人間の体は、一度感作した病原体を記憶し、次に感作した場合にその免疫記憶を応答させて抗原抗体反応を起こす。感作する機会が多ければ、自然に免疫応答が起こり（発症はせずとも）抗体価は高いまま保たれる。ただし、近年自然感作の機会が減った疾患（麻疹、水痘、流行性耳下腺炎など）は、生ワクチンであっても任意での追加接種を勧められている（年齢とともに抗体価が

時期	項目	内容
産褥期 入院中 1か月健診 母乳相談 育児サロン		<p>下がる可能性あり)</p> <ul style="list-style-type: none"> 一度その疾患に罹患していても、あるいは規定回数の予防接種を完了していても、追加で接種して問題はない。罹患歴や接種歴の記録や記憶がない場合、抗体価を測定してから接種すると費用も時間もかかるのでそのまま接種を勧められることが多い
	8. 副反応	<ul style="list-style-type: none"> どのような治療や検査処置であっても、必ず一定のリスクが伴う。予防接種など不特定多数の対象に対して行う介入の場合、得られる利益が起こりうるリスクに勝ると判断される時にしか勧奨されない 有害事象と副反応：ワクチンの接種後一定期間内に起こった好ましくない事象を有害事象（因果関係を問わない）、ワクチンが原因で起こった有害事象が副反応（因果関係あり） 予防接種の副反応として報告されているもののほとんどが、局所の腫脹・発熱・機嫌が悪くなるなどの症状（6 ワクチン中では、肺炎球菌が比較的マイルドな副反応を起こしやすい） 無菌性髄膜炎やアナフィラキシーショックなどの重篤な症例は非常にまれで、疾患に罹患するリスクの方が副反応リスクよりも高い
	9. 健康管理能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 予防接種の記録（母子手帳）をしっかりつけて、思春期になる頃にはお子さんへ渡してあげよう 生涯にわたって自分の健康管理を自分でできる人間に育てるために、接種歴や罹患歴、健診や治療の記録をつける習慣をつけよう 紙媒体の記録は震災・火災時などに紛失されるケースが多いので、電子媒体での保存もダブルで行うことが望ましい（国レベルでは、マイナンバー制導入後に接種情報をポータル化する動きも進んでいる）
10. 助産師の役割		<ul style="list-style-type: none"> 未接種の最多理由は情報不足で、医療者の情報伝達が接種率向上のカギ 助産師は最も早くから母子に働きかけられる職種である 説明に割ける時間は短くても、機会を逃さず情報を伝達し続けることが重要 母が初回接種に向けて準備行動をとれるよう、早めに予防接種について注意を促していこう
11. 話し合い		<ul style="list-style-type: none"> 明日からの業務の中で、どの場面で、どの程度なら予防接種に関する話に触れられるか 最低限伝えるべき項目は何か 配布資料をどう活用するか

ワクチンのふわふわ繭(まゆ)で赤ちゃんを守ろう！

- ・予防接種できない人(妊婦さん・赤ちゃん・病気で免疫が落ちている人など)の周囲の人がワクチンで免疫をつけ、地域で病気にかからない人が増えれば間接的に赤ちゃんが守られる
⇒これを免疫のコクーン(繭玉)・ストラテジーといいます



赤ちゃんが無事に生まれたら、 こんどは自分たちが繭(まゆ)になろう！

- ・接種できるワクチンを早めに済ませることで、周りの妊婦さんや赤ちゃんに病気をうつさないで済みます
- ・集団の約9割が接種を完了していれば、集団内でその疾患の流行は防げるといわれています
⇒これを集団免疫効果といいます



風疹の免疫をチェック！

- ・抗体価が16倍以下であれば、産後早くにワクチン接種を(授乳中でも接種OK)
- ・夫と上のお子さんの接種歴を確認しましょう
- ・抗体価を測定せずに接種しても大丈夫



ワクチンデビューは公園デビューの前に！

- ・生後2か月から予防接種を開始しましょう
- ・6種類(定期4種類+任意2種類*)すべて接種しましょう
- ・接種スケジュールは同時接種を前提として立てましょう



かかりつけ医を探そう！

- ・ワクチンで防げる感染症は一部だけ
- ・赤ちゃんは病気にかかりやすく病院に通う機会が多いため、早めにかかりつけ医の候補を見つけておくと安心
- ・予防接種とかかりつけ医は別でも母子手帳に接種記録が残るので大丈夫

生後1歳未満に開始する6種類のワクチン

- ・ヒブ⇒ 髄膜炎、中耳炎予防
- ・肺炎球菌⇒ 髄膜炎、中耳炎予防
- ・四種混合⇒ジフテリア、百日咳、破傷風、ポリオ予防
- ・BCG(生)⇒ 結核予防
- ・ロタ*(生)⇒ 嘔吐・下痢症予防
- ・B型肝炎*⇒ 急性肝炎、慢性肝炎、肝臓がん予防



ワクチンデビューは生後2か月から！



- ・2か月のお誕生日には予防接種を始めましょう
- ・妊娠中の風疹抗体価が低かったお母さんは、一緒に風疹ワクチンを接種しましょう(産後すぐから接種してOK)
- ・風疹抗体価が低い方は、はしかの抗体価も低い可能性があるため、MR(はしか・風疹)ワクチンを接種してもOK
- ・首がすわる頃(生後3~4か月)から外出(感染)の機会が増え、お母さんからもらった免疫も低下してきます
⇒その前(生後2か月)に予防接種をしておきましょう！



同時接種でスケジュールを立てよう！



なぜなら・・・

- ・病院に連れて行く回数は少ないほうがよい(病院で病気をもらう可能性もあります)
- ・同時接種でないと、接種開始時期が遅くなってしまう(間隔を空けて接種するため)
- ・同時接種で副反応のリスクが増える心配はありません
- ・同時接種でそれぞれのワクチンの効果が弱くなることもありません



任意ワクチンも忘れずに！

- ・B型肝炎は周りに感染者(キャリア)がいなくても接種が必要です
- ・1歳未満でB型肝炎に感染すると9割の確率でキャリアになるといわれています
- ・ロタは小さなお子さんほど重症になりやすく、5歳未満の下痢症での入院の半分はロタウィルスが原因です
- ・保育園・幼稚園入園前の接種をおすすめします
⇒他の園児からの感染の機会も多く、病気にかかると登園できないのでご両親の負担も大きくなります
⇒B型肝炎は保育園での集団感染のケースが報告されています
- ・B型肝炎・ロタワクチンはもちろん、1歳で接種できる水ぼうそうやおたふくかぜの任意ワクチンも忘れずに！

追加接種も忘れずに！

- ・2か月のワクチンデビューの後、生後半年くらいまでは、ほぼ毎月ワクチン接種があります
- ・不活化ワクチンは生ワクチンより反応性が弱いため、どうしても複数回の接種が必要です
- ・決められた回数の接種を完了してはじめて、免疫の効果が期待できます

記録をつけておこう！



- ・母子手帳に、お子さんの予防接種や健診の結果、病気の記録も残しておきましょう
- ・お子さんが思春期になったら、自分自身で健康管理をしていくよう手渡してあげてください



接種の間隔

生ワクチン: 27日空けて
(4週間後の同じ曜日から再開)

不活化ワクチン: 6日空けて
(1週間後の同じ曜日から再開)



予防接種に関する情報サイト



日本語

1. 国立感染症研究所

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/vaccine-j.html>

厚生労働省の研究機関。国の予防接種行政や感染症発生動向、接種スケジュールパターンなどが入手できる。



2. 厚生労働省

<http://www.mhlw.go.jp/>

国の指針通知や統計、政策検討会議の資料はここから。



3. NPO 法人 VPD を知って、子どもを守ろうの会

<http://www.know-vpd.jp/>

予防接種に熱心な小児科医を中心とした NPO。VPD (予防接種で防げる病気) 情報、オリジナルの啓発普及のための刊行物も豊富。



4. 日本小児科学会

<http://www.jpeds.or.jp/>

同時接種を前提とした小児科学会が推奨するスケジュールや同時接種についての解説資料、学会指針などはここでチェック。



5. 日本ワクチン産業協会

<http://www.wakutin.or.jp/index.html>

個々のワクチンの情報の他、医療者向け Q&A 集をはじめとする普及啓発のための刊行物も発行している。



6. 予防接種リサーチセンター

<http://www.yoboseshu-rc.com/index.php>

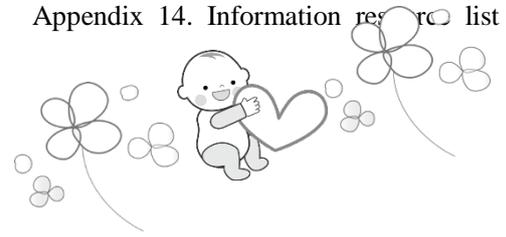
外国語版の予防接種ガイドラインなど、普及啓発のための刊行物を発行している。



7. 医薬品医療機器総合機構

<http://www.pmda.go.jp/>

ワクチン副反応情報はここから。



8. 日本プライマリケア連合学会

<http://www.primary-care.or.jp/index.html>

風疹と先天性風疹症候群についての啓発動画やスライド情報が載っている。



9. 上記に加えて、各自治体や保健センター、保健所の HP

自治体ごとに異なるが、接種費用助成、集団接種の日程、接種委託医療機関の情報などが入手できる。

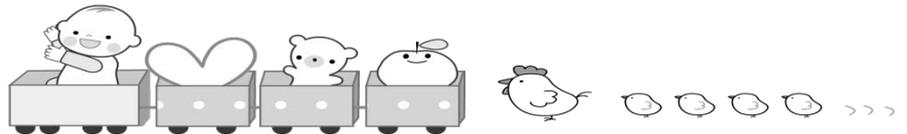
10. 東京都医療機関案内サービス「ひまわり」

<http://www.himawari.metro.tokyo.jp>

ワクチンごとに、接種可能な居住地近くの都内医療機関の検索ができる。47 都道府県で同様の検索サイトあり。



英語



1. 世界保健機構(WHO)

<http://www.who.int/immunization/en/index.html>

途上国も含めた世界の予防接種対策についての情報が得られる。



2. 米国疾病管理センター(CDC)

<http://www.cdc.gov/vaccines/>

世界で最も効果的にワクチン接種を行っているといわれるアメリカの予防接種事情がわかる。医療者向けの学習資料も充実している。



3. 英公衆衛生サービス局(Public Health England)

<http://www.hpa.org.uk/Topics/InfectiousDiseases/InfectionsAZ/VaccinationImmunisation/>

イギリスの予防接種についての情報が入手できる。医療者向けのトレーニング資料もあり。



教育プログラム フィデリティ評価

本日のプログラムの内容と方法について、タイムテーブルをご参照の上、下記の評価をお願いいたします。

1. 以下の項目について、どの程度 当てはまる と思われますか？

もっとも当てはまる番号 に○をつけてください。

	まったく そう 思わない	あまり そう 思わない	どちらとも いえない	やや そう思う	とても そう思う
1) プログラムに含まれているはずの内容が網羅されていた	1	2	3	4	5
理由:					
2) プログラムの量・回数・実施時間は守られていた	1	2	3	4	5
理由:					
3) 提供者は当初の計画通りにプログラムを実施していた	1	2	3	4	5
理由:					
4) プログラム参加者に内容が一様に届いていた	1	2	3	4	5
理由:					
5) 介入状況や物理的・社会的環境の悪影響など、効果的な介入を阻害する要因はなかった	1	2	3	4	5
理由:					
2. 上記以外に、今回のプログラムで同質性を阻害する要因や、お気づきの部分がありましたらご記入ください。					

ご協力ありがとうございました